



2026年
9月5日
第10課

真（本物）のクリスチャン の働き（ミニストリー）

わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。いつもイエスの死をこの身に負っている。それはまた、イエスのいのちが、この身に現れるためである。(2 コリント 4:8-10, 口語訳)



わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、
途方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、
打ち倒されても滅ぼされない。わたしたちは、いつも
イエスの死を体にまっています、イエスの命がこの体
に現れるために。(2 コリント 4:8-10, 新共同訳)



「牧師の生活は楽だ」なんて誰が言ったのでしょうか？福音の奉仕者たちは大きな責任を担っており、その活動には危険が伴うものです。

滅びゆく魂への愛、そしてすでに福音を受け入れた人々を支え、靈的に築き上げるために尽くす温かな配慮——これこそが、真の牧者と貪欲な狼とを区別するものです。

教会が牧会者たちと協力し、そのあり方を抜本的に変えるとき、教会はすべての人に慰めと喜びをもたらす、和解をもたらす存在となります。



牧師の仕事



真の働きの実り



苦しみと栄光



教会員の義務



キリスト中心の和解の働き



聖い生活への呼びかけ



共同の取り組みの成果



慰めと喜び



牧師の仕事

真の働きの実り

わたしたちの推薦状は、あなたがたなのである。それは、わたしたちの心に
しるされていて、すべての人に知られ、かつ読まれている。(2 コリント 3:2)

時が経っても、あまり変わらないものがあります。推薦状
は、1世紀当時と同様、今日でも新たな道を開くものです。
パウロはコリントの教会に受け入れられるために、推薦状
を必要としたのでしょうか。(2コリ 3:1)

彼には、これ以上ない最高の推薦状がありました。それは
コリントの信徒たち自身です(2コリ 3:2)。使徒とその
協力者たちの宣教を通して、彼らの心は神の恵みによって
変えられていたのです(2コリ 3:3)。

パウロとその協力者たちは、「新しい契約に
仕える者として十分な資格を持つ者」でした
(2コリ 3:6)。それは、永遠の命のために、
御霊によって心に記された栄光ある契約です。

しかし、ある人々は別の契約、すなわち石に
記された律法の行いによる救いという契約に
従いました。そのため、彼らは恵みの栄光を
悟ることができなかったのです(2コリ 3:7-9)。



Ⅱ コリント 3:1～9 を読んでください。

3:1 わたしたちは、またもや自分を推薦し始めているのでしょうか。それとも、ある人々のように、あなたがたへの推薦状、あるいはあなたがたからの推薦状が、わたしたちに必要なののでしょうか。**3:2** わたしたちの推薦状は、あなたがた自身です。それは、わたしたちの心に書かれており、すべての人々から知られ、読まれています。**3:3** あなたがたは、キリストがわたしたちを用いてお書きになった手紙として公にされています。墨ではなく生ける神の霊によって、石の板ではなく人の心の板に、書きつけられた手紙です。**3:4** わたしたちは、キリストによってこのような確信を神の前で抱いています。**3:5** もちろん、独りで何かできるなどと思う資格が、自分にあるということではありません。わたしたちの資格は神から与えられたものです。**3:6** 神はわたしたちに、新しい契約に仕える資格、文字ではなく霊に仕える資格を与えてくださいました。文字は殺しますが、霊は生かします。**3:7** ところで、石に刻まれた文字に基づいて死に仕える務めさえ栄光を帯びて、モーセの顔に輝いていたつかの間の栄光のために、イスラエルの子らが彼の顔を見つめえないほどであったとすれば、**3:8** 霊に仕える務めは、なおさら、栄光を帯びているはずではありませんか。**3:9** 人を罪に定める務めが栄光をまわっていたとすれば、人を義とする務めは、なおさら、栄光に満ちあふれています。

どういう意味において、私たちはキリストの手紙となることができるのでしょうか。

苦しみと栄光

すべてのことは、あなたがたの益であって、恵みがますます多くの人に増し加わるにつれ、感謝が満ちあふれて、神の栄光となるのである。(2コリント 4:15)

パウロは宣教に伴う危険を理解し、それに耐え忍びました。しかし彼は、それらの危険を冒すだけの価値があることを知っており、救いを得る機会を人々に与えるという愛のゆえに、それらを引き受けたのです(2コリ 4:15)。さらに彼には、神の助けがあるという確信がありました(2コリ 4:7-9)。

私たちは...

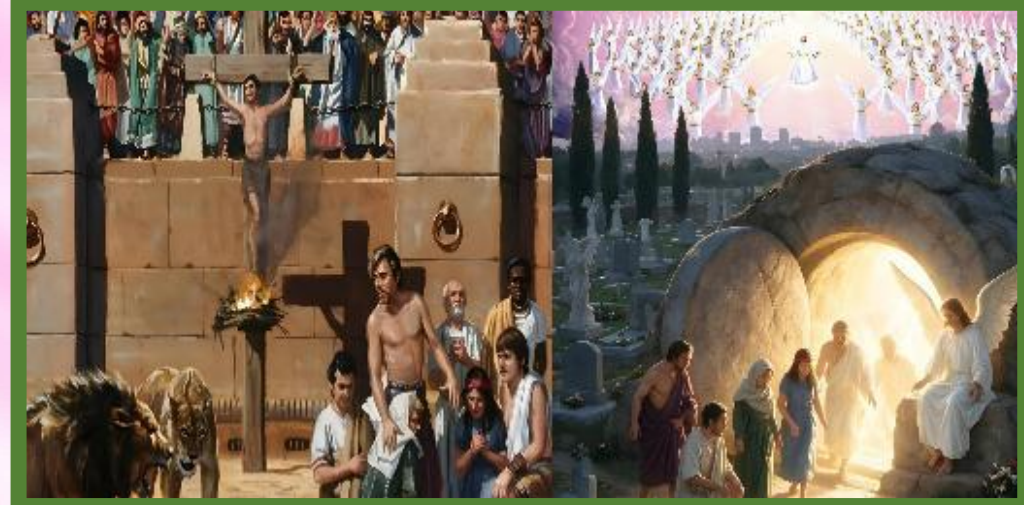
- 四方から苦しめられた
- 途方に暮れた
- 虐げられた
- 打倒された

しかし...

- 行き詰らない
- 失望せず
- 見捨てられない
- 滅ぼされない

福音は、栄光がただ神にのみ帰するように、脆い人間を通して宣べ伝えられます。

苦難は、私たちが復活の日に得る「栄光の、はるかに優れた永遠の重み」と比べれば、「一時的で軽いもの」にすぎません(2コリ 4:14-18)。



私たちが今どのような状況にあらうとも、
復活、すなわち私たち自身の復活
(**I コリント 15:52**) への希望を

15:52 最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、
一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して
朽ちない者とされ、わたしたちは変えられます。

常に心に留めておくことが、
なぜそれほど重要なのでしょうか。

教会員の義務

キリスト中心の和解の働き

しかし、すべてこれらの事は、神から出ている。神はキリストによって、わたしたちをご自分に和解させ、かつ和解の務をわたしたちに授けて下さった。(2 コリント 5:18)

教会（および各信徒）の歩みを支配すべき原動力は、次のようなものです。「キリストの愛が、私たちを駆り立てるのです」（2コリ 5:14）。この愛とはどのようなものであり、何が私たちを駆り立てるのでしょうか。

キリストは愛ゆえに、ご自身の命を捧げられました。このことが、私たちにキリストのために生きるよう促すのです（2コリ 5:14-15）。

キリストは私たちを新しい造られた者としてくださいました。このことは、私たちが古い生き残を後にすることを促すものです（2コリ 5:17）

キリストは私たちを神と和解させてくださいました。このことは、私たちが和解の使者となるよう駆り立てるものです（2コリ 5:18-20）。

したがって、キリストの愛は、私たちを根本的な生き方の変革へと導きます。キリストの愛に生きることはまた、その愛を他の人々と分かち合い、「神と和解しなさい」（2コリ 5:20）という希望のメッセージを受け入れるよう彼らに促すことにもつながります。



キリストがあなたのためにしてくださった
ことを考えてみてください。キリストが
十字架上であなたのためにしてくださった
ことがなければ、あなたが負わなければ
ならなかったであろう罪悪感、罪、そして
裁きについて考えてみてください。
この現実が、他者、とりわけ主を知らない
人々との関わり方に、どのような影響を
与えるべきでしょうか。

聖い生活への呼びかけ



聖さへの招きは、牧会者と信徒の双方の日常生活に影響を及ぼします。

困難に耐えるために (2 コリ 6:4-5)

御霊の実を結ぶために (2 コリ. 6:6)

誠実かつ公正であるために (2 コリ. 6:7)

いかなる状況においても揺るがない(2 コリ 6:8-10)

他者に対して心を開く (2 コリ. 6:11-13)

不信仰者たちの有害な影響から身を守るために (2コリ 6:14-15)

愛する者たちよ。わたしたちは、このような約束を与えられているのだから、肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くなろうではないか。 (2 コリント 7:1)

パウロは旧約聖書のいくつかの箇所を組み合わせ、聖さへの招きとその結果を次のように要約しています (2コリ 6:16-18)。

呼びかけ

- 罪の場から離れなさい
- 罪人たちから身を遠ざけなさい
- 汚れたものには触れてはいけません

結果

- 私はあなたたちと共に住む
- 私はあなたの神となる
- あなたたちは私の民となる
- あなたをお迎えします
- 私はあなたの父となります

Ⅱ コリント 6:16～18 にある神の約束は、

6:16 神の神殿と偶像にどんな一致がありますか。わたしたちは生ける神の神殿なのです。神がこう言われているとおりです。「『わたしは彼らの間に住み、巡り歩く。

そして、彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

6:17 だから、あの者どもの中から出て行き、遠ざかるように』と主は仰せになる。『そして、汚れたものに触れるのをやめよ。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れ、**6:18** 父となり、あなたがたはわたしの息子、娘となる。』全能の主はこう仰せられる。」

聖さとは何かについて、
私たちに何を教えているのでしょうか。

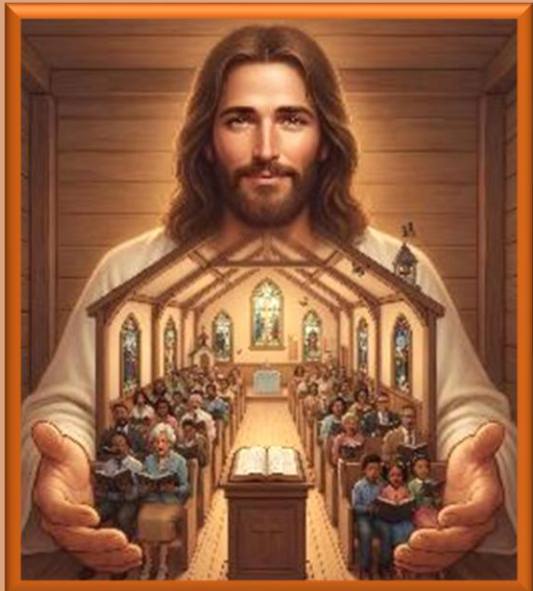
共同の取り組みの成果

慰めと喜び

わたしはあなたがたを大いに信頼し、大いに誇っている。また、あふれるばかり慰めを受け、あらゆる患難の中にあって喜びに満ちあふれている。(2 コリント 7:4)

直面した問題にもかかわらず、パウロは大いに喜んだ。
(2コリ7:4)。この喜びの理由は何だったのだろうか。

パウロはコリントの信徒たちに厳しい手紙を書き、それによって彼らは悲しんだ(2コリ7:8)。しかし、その悲しみは彼らを悔い改めへと導いた(2コリ7:9-10)。その結果、パウロとの関係、そして互いの関係に完全な変化がもたらされた(2コリ7:11-12)。



こうして、すべての人に慰めがもたらされた。パウロの同行者であるテトスは慰められた。(2コリ7:7)。パウロはテトスの到着によって慰められた(2コリ7:6)。コリントの信徒たちは慰められており、それがパウロにも慰めをもたらした(2コリ7:13)。

しかし、パウロはそれを自分の手柄とはしなかった。牧師や信徒たちが喜びと慰めを味わるのは、神が「気落ちしたものを力づけてくださる」からである(2コリ7:6a)。

人生の中で、「神の御心にかなう悲しみ」
〔口語訳「神のみこころに添うた悲しみ」〕
を経験したことはありますか。
それが、悔い改めへと導く神の御心による
悲しみであると、どのようにして
分かったのですか。

「ミニストリー（救霊の働き）とは奉仕を意味し、私たち皆はこのミニストリー（救霊の働き）に召されています。自己満足の生活を選ぶことは、神の名誉を損なうことになるのです。兄弟姉妹の皆さん、真理の光が彼らの道に照らされなかったために、毎年何千、何万もの魂が滅び、罪のうちに死んでいるという事実を、皆さんは認識していますか？」

この世には成すべき偉大な働きがあります。男女が回心するのは、異言の賜物や奇跡の働きによるのではなく、十字架につけられたキリストの宣教によるのです。なぜ、この世をより良くするための努力を先延ばしにするのでしょうか。